策定プロセス訪問調査事例

岐阜県美濃加茂市

母子保健計画策定プロセスに関する調査票

市町村名（ 美濃加茂市 ）　　記載担当者名（ ）

	市町村		保健所の関与
	市町村行政内部の作業	住民参加	
【Ⅰ】事例の概要 ◆事例検討に当たって理解しておくべき背景 ・人口、地理的条件、　社会資源等 ・市町村の組織体制等 ・住民組織の成熟度等 ・県の取り組みと保健　所の特徴 ・その他	人口：46,065人（H7)、出生率：11.4%(H7)、老年人口割合：14.1(H6) 医療状況：総合病院（有り）、産科（有り）、小児科（有り） ＮＩＣＵ（無し）　多治見市、岐阜市へ、４０分。 ・老年人口割合は増加傾向だが、出生率は他町村より高めで、目立って低下はしていない。 ・児童館がないなど母子に関する施設が少ない。（老人関係施設は多い） ・保健センター職員：所長、保健衛生係２人、健康係(保健婦７人、看護婦１人 栄養士１人） ・以前から母子保健に関する事業は、低出生体重児訪問の一部や申請事務などをのぞき、ほとんど市が主体で行ってきていた。（保健所はこのサポートをしてきた）		所管保健所：可茂保健所 ・管内人口：217,612人(H7) ・市町村数：１１市町村 （２市８町２村） ・保健所保健婦と市町村担当者との定例の研修会を開催していた。（年１０回） ・その他は乳幼児健診や会議などでの関わり程度
【Ⅱ】計画策定の準備 ◆計画策定の目的、策定の手法等の合意形成 ①合意形成のキーマン ②範囲 ・首長、財政、他課、　議会、住民組織、医師会等 ③合意形成の手法 ・個別調整、会議、　研修・勉強会等 ④策定体制の有無、 構成、運営	◎５月上旬の保健所からの説明会から、８月末の　提出締め切りまでの４ヶ月で計画を策定 ・一番上の保健婦が中心になり、他の母子担当保健婦２人と打ち合わせをしながら母子保健連絡協議会の準備をした。 ・とにかく策定要領に示された必要資料（数値）を全て集めるところから始めた。 ＊保健所、市企画課、都市計画課、福祉事務所等　に個別で聞き取り。 ・資料を集めてから、どういう母子保健をイメージするかというところから３人で話し合いながら、策定指針を基準に素案を作成。 ＊学生の実習指導で地域づくり型保健活動につい　て行ったとき、この方法は他の課を巻き込んでわ　かりやすく計画が立てられると思った。 ＊この方法は目標があって事業があるという基本　を大切にしたいと言う思いに合っていた。（保健　婦は事業を評価することを主にしてきたが、全体　をみることができる） ＊エンゼルプランを重視して多分野が協力して　できると良いと考えた。 ◎問題点 ・老人保健福祉計画の時は上から関係機関が協力する形が取られた為、それぞれが策定の意義を知っていたが、今回はそれがなかったため、連携をとるのに一から理解を求めなければならなかった。（担当者が動きにくかった） ・もっと他機関との連携が必要だった。（時間がなかったことと、今までそういう体制がとれていなかった）		Ｈ８年５月 保健所担当者が市町村へ「計画策定指針」の説明。 ＊具体的に取り組みを開始している市町村の報告と具体的な進め方のイメージづくり） ・管内保健関係課長へ計画策定の説明をし、課長レベルへの理解を求めた。
◆その他、計画策定のための環境づくり ・予算 ・人的体制 ・時間の確保 ・その他	・予算はなし。印刷代は母子保健としての予算から捻出。 ・人的体制は特に配慮無し。通常業務に計画策定のための作業が加わった。 ・上司は策定については理解していたが、そのための雇い上げをするという事はなく、時間外で対応。		
【Ⅲ】地域の実態、住民ニーズの把握 ①地域の実態、住民ニ　ーズ把握の視点の整理と共有化 ・キーマン、範囲、 手法、検討体制 （【Ⅱ】と同様） ②具体の手法 ・既存資料の活	・１歳６ヶ月児健診・３歳児健診・乳幼児学級に参加した母親を対象に、アンケート調査。 内容：Ｈ８年２月に県が実施した子育て意識調査　の内容を用いて美濃加茂市の実際を把握し　ようとした。（県との比較） これと別に新生児訪問など事業面について　調査（目標値の設定のため） ･･･乳幼児相　談参加者と推進員が１歳までの子供のいる　家庭へ訪問して調査 ・母子保健推進員を集めて、母子を中心に「どんな町にしていきたいか」についての話し合いを実施。 ＊一般住民（老人や男性を含めた）に意見を聞き　たかったが時間がないため、保健婦と母親をつ　なぐ位置にある母子保健推進員に聞いた。 ◎調査をした理由 ・住民が昔と比べ変化してきており、その声を	母親の意見 ・交流の場が欲しい ・悩み事の相談は専門家　より身近な同じ立場の　人がよい ・新生児訪問の希望は25% ＊気を使わなければな　らないため、必ずしも訪問は喜ばれない。出　かけることになれている。 母子保健推進員の意見	・保健計画の指標となる資料をまとめて提供。 ＊数字の問い合わせに対し、　随時対応。

用 ・住民等との対話 ・アンケート調査	聞かないと真のニーズと合わない計画になる。 ・アンケート結果は協議会や市の上層部に理解を求めるには良い資料となる。	・物質的には恵まれてい　るが心は？ ・児童館の不足 ・今の母親は待つことが　苦手 ・子供をすぐ叱る ・ストレス発散の場が必　要	
【Ⅳ】計画（施策）化 ①具体の対応方策に関　する検討協議と関係者の合意形成 ②内容 ・具体の目標、数値目　標、評価指標	・関係機関と話し合う時間がなかったため、各自の思いを聞き取りして文章化するなどして、素案を担当保健婦３人で作成した。 ◎問題点 ・文章化を保健センターでしたため、保健センター事業についてはある程度具体的に書けるが、他機関に関しては決定権がないため具体的には記載できなかった。‥‥市の計画だが保健センター計画になってしまった。（名前が母子保健福祉医療計画だと良かったのでは） ・担当者レベルでの連携では、協力はしてもらえても、そこの仕事としてまでの認識はしてもらえない ◎評価 ・１年に１回協議会を開催し、見直しをするという一文のみで評価まで計画化できなかった。 ・具体的目標は挙げたが、数値化まではできなかった。（実際、評価するだけの時間があるのか疑問）	・住民の計画段階への参加は無し。 ＊計画作成の途中で意見を聞く場を設けたかったができなかった。 （時間的問題）	・保健指導課長が協議会に委員として参加。 ・市町村担当者を対象に計画策定の進捗状況についての検討会を開催した。
【Ⅴ】計画の具体化 ・９年度予算への反映 ・計画の進行管理 組織体制 ・住民、関係機関への　周知等	◎予算への反映 ・育児教室、乳児訪問（委託）、両親学級を開催。 ◎進行管理 ・従来の事業に新規事業を加えて実施しているため煩雑になっており、平成９年度中に事業全体の見直しをする予定 ・年１回協議会で見直しをする予定 ・ダイジェスト版は予算不足で全市民に配布はできず、関係機関（各課、民生児童委員、ボランティア等）に配布した。 ・市民へは広報で「子育てについて」の特集の中で策定について報告。		・市町村担当者を対象に計画の進行状況と課題についての検討を行った。
【Ⅵ】全体を通じた事　例のまとめ （キーワーズも記入）	＜事例の特徴＞ ・短期間で策定する中で、できるだけ母子保健全体を考える形で進めようとしている。 ・住民のニーズ把握の工夫（母親へのアンケート、母子保健推進員への聞き取り） ・保健センター事業のみの計画にしないため、関係機関との連携をとろうとしている。 ・膨大な資料収集と分析、計画書の作成を３人の保健婦で行った。 ＜感想＞ ・既存の事業をふまえて作るのがやりにくかった。（イメージ化が難しかった） ・これまで事業に追われていたが、地域をみることができた ・他機関に保健センターの業務が理解してもらえるようになった。（市の行政の中で保健分野はインパクトが弱いが、今後もっと市全体として保健について考えていけるようにしたい） ・連携ができるようになった。またはその必要性について認識してもらえた。 ・医師会、歯科医師会との連携がスムーズになった。 ・老人保健福祉計画を手づくりした経験がある程度役に立った。（計画に何が必要かなど） ＜要望＞ ・県レベルでせめて福祉部門との連携がとられた上での計画策定への指導がされると良かった。 ・老人保健福祉計画時のような保健所とのヒアリングがあると良かった。 ・計画を立てるための研修会があると良かった ・保健所へ：計画の見直しの機会を作って欲しい。（市独自で行うだけでなく保健所として）		